

## 江戸の文化の流行

18世紀の後半頃から、文化の中心は、江戸に移っていきました。

江戸では、上方かみがたの影響を受けながら浮世絵うきよえ、歌舞伎かぶき、俳諧はいかいなどが流行しました。特に浮世絵は、江戸で生まれたものです。これは、版画を基本とする絵画で、主に役者や女性、風景などが描かれました。

中でも、何度にも分けて印刷する多色刷りたしよくず版木の技術は、当時、世界でも最高の水準であったといわれています。

栃木には、江戸の浮世絵師が何人も来ています。例えば、美人画で有名な喜多川歌麿きたがわうたまろは、商人の釜屋伊兵衛かまやいへえの家に住んで浮世絵を描いています。「月」「雪」「花」の一連の作品は、歌麿の作品の中でも特に優れているものといわれていますが、これらは、このときかかれたものです。現在、「女達磨図」、「三福神の相撲図」、「鍾馗図」の3つの作品が栃木市にあります。